

「製品認証取得の会員紹介」⑬

株式会社川本製作所 岡崎工場



川本製作所 岡崎工場の管理棟

今年で創業90周年を迎えるポンプ専用メーカー「株式会社川本製作所」(名古屋市中区大須4丁目、高津悟社長)の岡崎工場(愛知県岡崎市橋目町)取材した。昭和41(1966)年に完成した生産拠点の岡崎工場は、家庭用、工業用、農業用各種ポンプを年間合計24万台余りを生産している。主な製品として、ポンプ業界初のインバータを採用した家庭用ポンプ「カワエースシリーズ」がある。また、病院、ホテル、食品工場での需要が多い除菌器「アクアクリン」と除鉄・除マンガン槽「アクアフィルター」をユニット化した水処理装置「アクアシリーズ」がある。川本製作所及び岡崎工場について紹介する。

創業の経緯

陶製や木製手動式ポンプが主流だった大正8(1919)年、名古屋市中区大池町で、川本鏑三氏が新たな一体鑄造の鑄造製手動式家庭用ポンプを開発した。「共柄(ともえ)ポンプ」の名で発売した新製品は、輸送中に破損しにくく耐久性に優れ、量産化にも適していたため、瞬く間に市場を席卷した。これが個人商店「川本製作所」の創業である。同社は、大正11(1922)年には全国をカバーする販売代理店2,000店舗を整備し、シェアを拡大していった。昭和2(1927)年から輸出を開始し、当時植民地だった中国、韓国、台湾のほか、東南アジアに積極的な市場開拓を進めていった。

第2次世界大戦後の昭和21(1946)年、同社は名古屋市中区大池町に大池工場、中川区運河通りに六反工場を相次いで建設し、家庭用ポンプの製造を開始した。昭和23(1948)年、名古屋市中区西川端町に西川端工場を新設し、生産能力を増強した。これら工場はその後、昭和41(1966)年に完成した生産拠点となる岡崎工場に統合された。生産拠点の統廃合と併せて、積極的な組織改革も推進し、昭和24(1949)年、個人商店から株式会社へと移行した。初代社長に創業者の川本鏑三氏、専務取締役に息子の川本修三氏が就任した。昭和27(1952)年、資本金を設立当初の380万円から500万円

に増資。同年10月、川本鏑三社長が急逝したため、後任の社長として、川本修三専務が昇任した。急速な事業発展に伴い、川本製作所は昭和48(1973)年、地上9階・地下3階・延床面積12,100㎡の本社新社屋を名古屋市中区大須4丁目に建設した。

同社は社是として「信用第一」「品質本位」「旺盛なる責任」を掲げている。平成20(2008)年度売上高は約315億円。売上ベースでは国内向けが99%を占め、海外向け1%となっている。ポンプを主力製品として、自動給水装置、水処理装置など合わせて年間約24万台を生産している。用途別では家庭用10万台、工業用7万台、農業用7万台となっている。

製品の変遷について

昭和25(1950)年頃、川本製作所の主力製品は「手動式ポンプ」から「動力式ポンプ」へと移っていった。戦後の食糧増産政策に伴い農業用ポンプの需要が伸びたのに加え、朝鮮戦争特需により国内経済が急速に回復し、工業用、家庭用ポンプも需要が拡大した。同社は昭和27(1952)年、「高揚程(こうようてい)うず巻きポンプ」を販売し、また、同年からアフリカに向け輸出も開始するなど売上高を順調に伸ばしていった。

昭和29(1954)年、一層の小型化と低価格化を実現した小型家庭用電気ポンプ「ベビースイート」を発売、新製品は装置の前面位置に呼び水用注水口を取り付け操作性を向上させた。また、消費電力を100Wに抑え省エネ性を高めたほか、低価格も実現した。その後のポンプの主流モデルとなった画期的な製品だった。昭和30(1955)年、電気ポンプではKT形タービンポンプを、手押しポンプではひらがなの「れ」に似た形で龍をイメージさせる「ドラゴンポンプ」を発売した。昭和32(1957)年には世界最小といわれる全自動式自吸式家庭用ポンプ「国民Ⅲ形(消費電力60W)」と「ワールドスィー



手動式共柄ポンプ



家庭用ポンプ「NF形カワエース」

ト(100W)」を開発し、昭和37(1962)年には改良型家庭用「ニューベビーポンプ」を発売した。「川本ポンプ」は国内外の顧客から高い評価を受け、昭和39(1964)年、日本住宅公団(当時)の東京・関東・中部各支社、東京都庁など30余りの官公庁やユニセフ(国連児童基金)により指定商品として認可されている。

そのほか、昭和50(1975)年には防災設備用として消火ポンプユニット「セフティエースシリーズ」を発売、同シリーズはメンテナンスが容易なタービンポンプを採用したもので好評を博している。現在ではキュービカル型消火ポンプユニット(スプリンクラー用)など豊富なラインナップを取り揃えている。

昭和58(1983)年には家庭用ポンプ「N2形カワエース」を開発、同製品は昭和62(1987)年に「グッドデザイン賞」を受賞した。平成3(1991)年には無接点方式の長寿命タイプ「N3形ニューカワエース」を発売した。

ステンレスポンプを開発

錆びにくく堅牢なステンレス鋳物を採用した製品開発も推進し、平成7(1995)年にステンレス製速度制御給水ユニット「ポンパー KF」を発売した。同製品は商業ビルやマンション向けの自動給水装置で、その発展タイプとしては直結給水装置「KFD2」がある。平成13(2001)年にはステンレス製省エネ型家庭用ポンプ「Newソフトカワエース」を開発し、同製品は平成14(2002)年に「省エネ大賞」で「資源エネルギー庁長官賞」を受賞した。平成18年にはステンレス製手押しポンプ「ドラゴン(HDS形)」、平成19年にはステンレス製高揚程給水ユニット「KVF2形」を開発した。KVF2形はステンレス製立形タービンポンプを採用した超高層ビルに対応した



最大250mまでの揚水可能な深井戸用ポンプ



小型家庭用ポンプの組立ライン

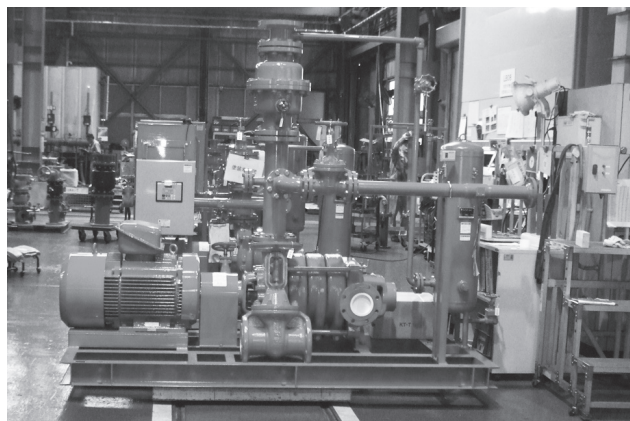
最大250mまでの揚水が可能で、最大6台までインバータによる台数制御が可能である。

近年は、地球環境に配慮した自然エネルギーを利用する製品の開発にも積極的に取り組んでいる。平成20(2008)年には太陽光発電ユニット「エコソーラー」を開発。同製品は太陽電池により電源の無い田畑、庭などでも給水ポンプの利用が可能で、表示パネルの採用により容易な操作性を実現した。また雨水利用装置として開発した「カワ太郎」は雨水からゴミ・ホコリ・砂を除去した上で貯水し、公園の散水用や屋外の水洗トイレ用に使用する装置であり、「エコ商品」として注目を集めている。

岡崎工場

岡崎工場は愛知県岡崎市橋目町にあり、昭和41(1966)年に完成した。その後、平成元(1989)年に隣接地に神田(じんでん)分工場と事務棟が建設され、平成3(1991)年にはラックビル式部品自動倉庫などが完成し、敷地面積56,600㎡、建築面積34,650㎡となった。年間30万台の生産能力を持つ。従業員は約300人。同工場は平成15(2003)年、安全衛生に係わる優良事業場として厚生労働大臣奨励賞を受賞した。また、平成15(2003)年に岡崎工場と本社を対象に品質マネジメント国際規格ISO9001(2000年版)の認証を、平成16(2004)年に本社を対象に環境マネジメント国際規格ISO14001の認証を取得した。

岡崎工場では、企業スローガンである「大切な「水」をあなたへ」を生産活動の使命として掲げ、川本製作所の生産拠点として、陸上用ポンプから水中用ポンプに至るまで、社会のニーズに合わせた製品造りに心掛け、環境に優しく品質の良い製品を供給していく。



消火ポンプユニットKTY形